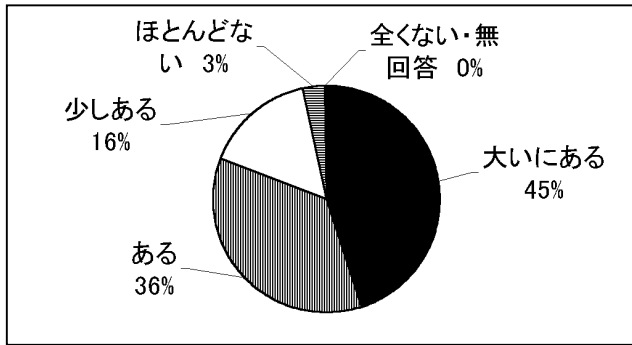


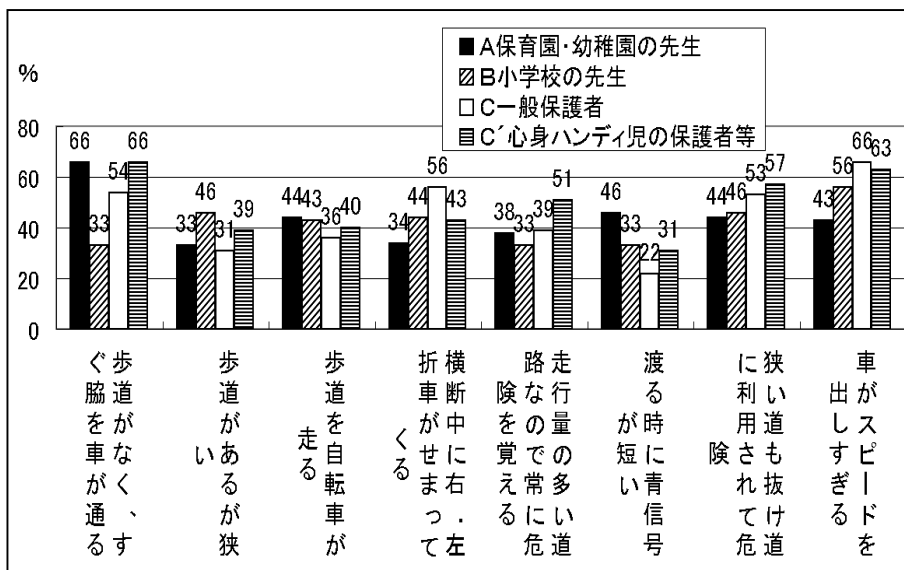
1 子どもの歩く戸外に、クルマの危険が多いと感じる人の割合は？



保護者の8割は子どもの歩く戸外にクルマの危険が大いにある、またはあると感じています(図A)。保育園・幼稚園の先生が子どもたちを散歩に連れ出すときも、危険をいつも感じる人は5割、ときどき感じる人を合わせると9割にのぼります。

図A：家周辺や通園・通学路でのクルマの危険の感じ方(保護者全体)

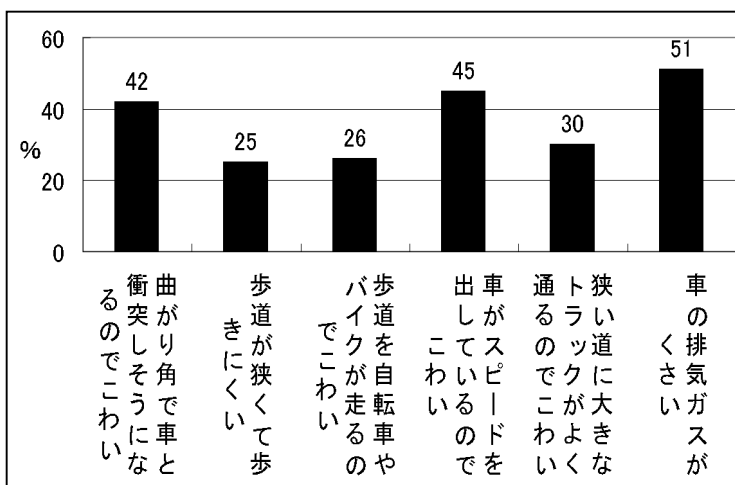
2 子どもの歩く道や横断歩道には、どのような危険や不安がある？



クルマのスピードの出しすぎや抜け道利用による危険、走行量の多さ、交差点での右・左折車の脅威、また、歩道がない・狭い・自転車が通る、などを多くの人が指摘しており(図B)、生活の場に事故の危険が常在していることを示しています。ほかにも、雪道の歩行環境の悪さや路上駐車が多さなど多くの問題が浮き彫りになっています。

図B：道路で感じる問題(保育者等)(上位8項・複数選択式)

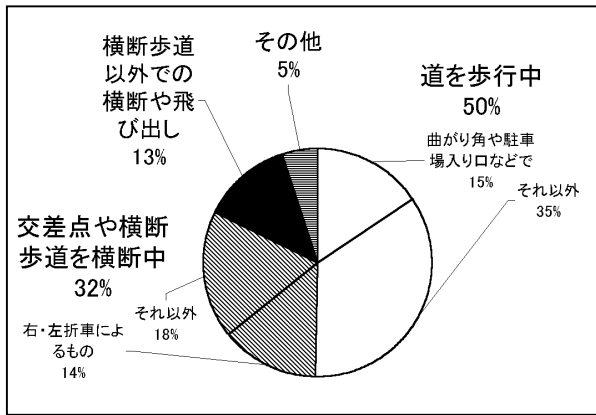
3 小学生らが歩行中に感じる危険は？



子どもの回答で目立つのはクルマのスピードに対する恐怖心の強さで、低学年ほど強く感じていました。曲がり角での衝突の不安を感じる子が多いのは、移動に自転車を使う場合が多いためのようです。排気ガスの臭気を半数が指摘しているのも特徴(大人では2割強)。これは身長が低いと、その分有害物質を吸い込む量も多いと考えられ、健康への影響が気になります(図C)。

図C：道路で感じる問題(小学生と心身ハンディ児)(上位6項・複数選択式)

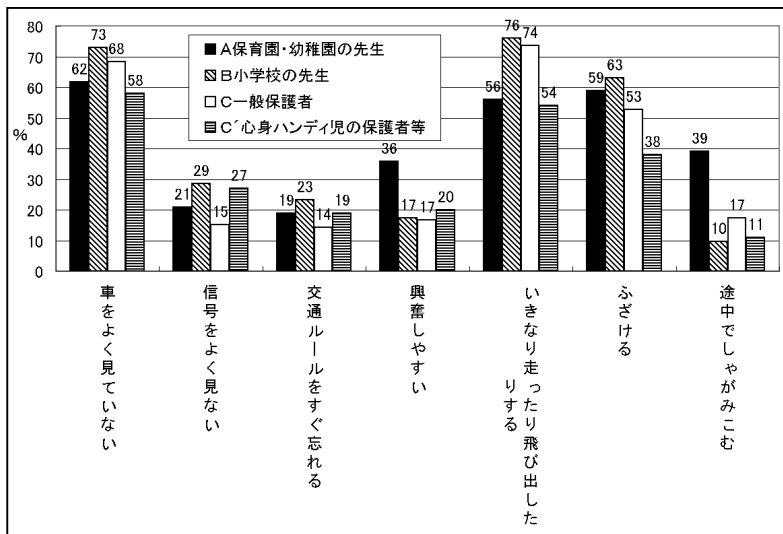
#### 4 実際の事故体験やヒヤリとした体験はどんな場面で？



大人の回答でも子どもの回答でも小学生の体験事例が目立っています。大人の記入事例では、道を歩行中が半数で、うち1/3は曲がり角や駐車場入り口などで起きています（図D）。原因は運転者にある場合が55%、道路構造に起因するものが15%です。小学生自身では、自転車利用中の体験、また、曲がり角での体験が多くみられました。

図D：事故体験やヒヤリ体験の場所・状態別分類（大人の記入事例）

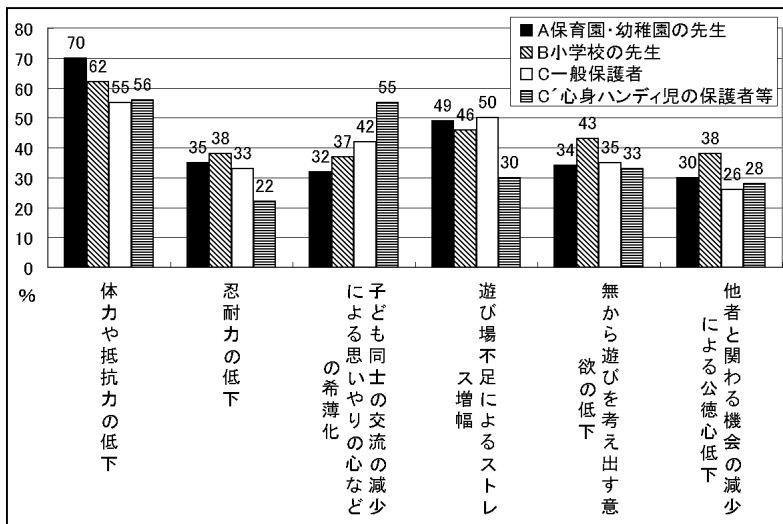
#### 5 子どもが歩行中に無意識にとりやすい行動は？



多く見られる傾向は、クルマをよく見ていない、いきなり走る・飛び出す、ふざける、など。幼児では、途中でしゃがみこんだり興奮しやすい傾向も示されています（図E）。子どもは心身が未成熟で、「注意力散漫・好奇心や情緒に支配しやすい・自己中心的」等の特性を持つことはよく知られており、それを再認識させる事例がこのほかにも数々挙がっています。交通教育では律しきれないこうした子どもの特性をよくふまえて、道路環境やクルマの使い方を改善する対策が必要でしょう。

図E：歩行中の子どもの行動傾向（保育者等）（複数選択式）

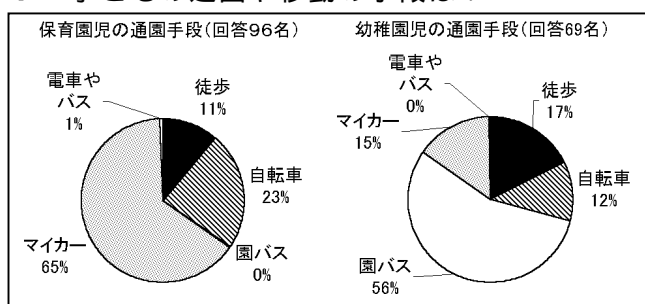
#### 6 クルマ社会が子どもの心身に与える影響は？



子どもの心身の変化でクルマ社会の影響が大きいものとしては、体力や抵抗力の低下、ストレス増幅、友だち関係の希薄化などを多くの大人が挙げています。友だち関係の希薄化は、心身ハンディ児の保護者らが特に強く感じています。こうした現象は、テレビやゲーム機器の浸透、少子化、教育熱等々の影響も絡んでいると思われるますが、いずれにしても生活が便利に、また人工的・閉鎖的になっていくほど、子どもの心身には深刻な変化が及んでいくようです。

図F：子どもの心身の変化でクルマ社会の影響が大きいと感じるもの（保育者等）（複数選択式）

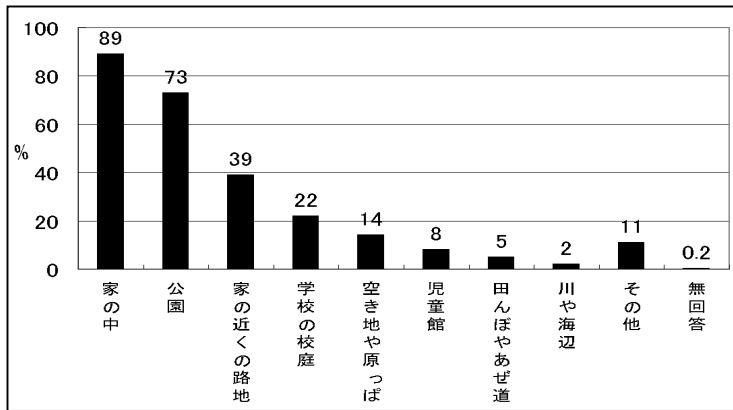
#### 7 子どもへの通園や移動の手段は？



子どもの脚力低下を指摘する意見は多いものの、保育園児、幼稚園児で園に歩いて通う子はわずか2割以下でした（図G）。また保護者の4割近くは、毎日1回以上子どものためにマイカーを使っています。なおマイカー使用回数は人口密度の低い地域ほど多く、公共交通網の発達状況の影響が現れています。

図G：園児の通園手段

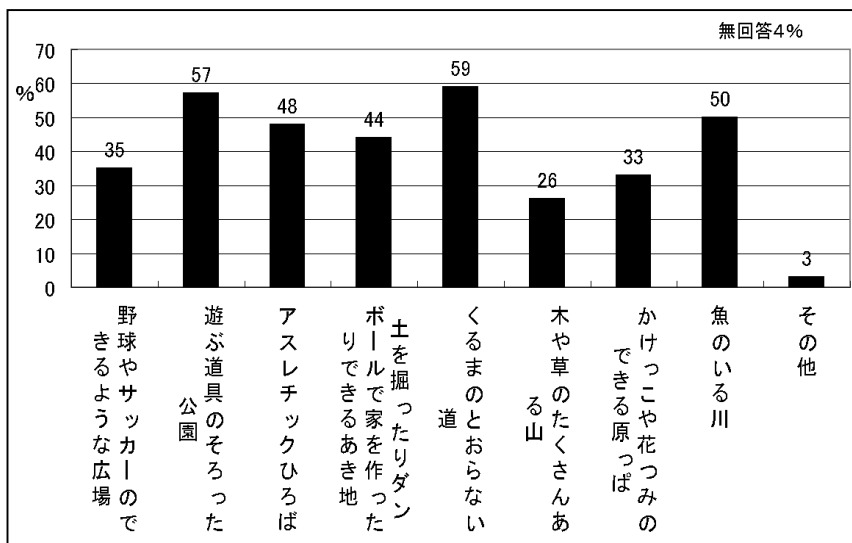
## 8 子どもがよく遊ぶ場所は？



今の子どもたちがよく遊ぶ場所を尋ねたところ、家の中が最も多く、戸外では公園が筆頭に挙がっていました。かつてはあちこちに見られた空き地や原っぱ、田んぼやあぜ道などは少数で、そうした自然と触れ合える遊び場が減っていると感じさせます（図H）。

図H：子どものよく遊ぶ場所（一般保護者）（複数選択式）

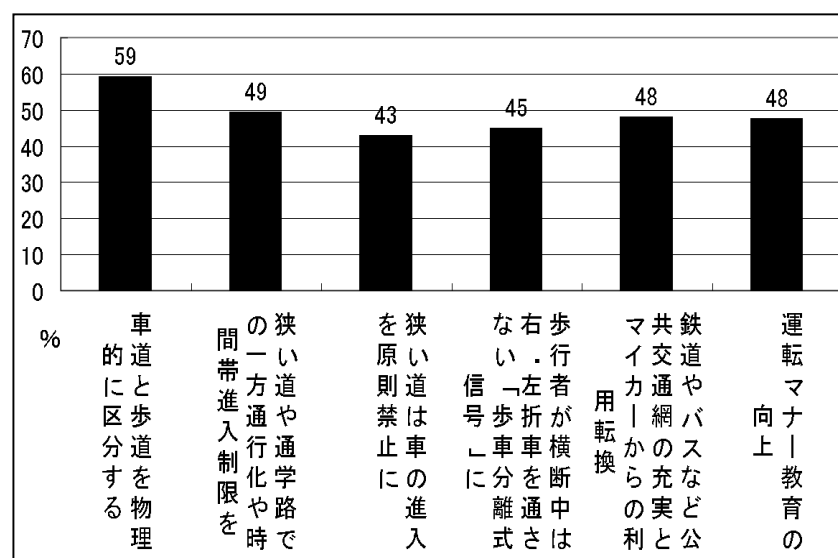
## 9 子どもたちはどんな遊び場を求めている？



小学生の多くが求める遊び場は、クルマの通らない道（今40代くらいまでの人々にとっては遊び場の1つだった所）、公園、広場、川など（図I）。「クルマの来ない道があったら何をして遊ぶ？」という質問にはボール遊びやおにごっこ、自転車乗りなど70種以上もの遊びが挙がりました。子どもたちの生活の場に「自由に群れて安全に遊べる場」をとり戻していくことも、大事な課題ではないかと考えさせられます。

図I：あったらいいと思う遊び場（小学生・複数選択式）

## 10 どんな交通環境、どんな社会を人々は求めている？



歩道の設置や歩車分離式信号などの対策とともに、自動車の走行規制の諸対策、運転マナー教育の向上、そして公共交通網を増やしてマイカーを減らす策、などを多くの人々が求めています（図J）。「クルマ社会と子どもについて」の自由意見には、事故の不安や心身機能低下への懸念のほか、クルマ優先社会への疑問、マイカー使用を強いられる状況での煩悶も多く記されています。クルマ依存の暮らしの見直しを、多くの人々が必要と感じていることが伝わってきます。

図J：歩行者の安全や交通環境改善のために望む対策（大人全体・上位6項）

以上の10項目は、アンケート報告ダイジェスト版として、本報告書の中から主な報告を簡単にまとめたものです。ダイジェスト版のみの別刷りもありますので、ご入用の方は裏表紙の連絡先まで、ご連絡ください。